

Echoes of the Ganga* インド古今神秘の調べ

- 6/6 高崎シテイギヤラーコーパ・ホール (関東)
- 6/10 豊島公会堂 (関東)
- 6/12 岐阜市民文化センター (中部)
- 6/13 熱田文化小劇場 (中部)
- 6/14 大阪学院大学 (近畿)
- 6/15 種智院大学 (近畿) ●6/17 石山寺 (大津)
- 6/19 慶應義塾大学日吉キャンパス・来往舎 (関東)
- 6/21 武蔵野音楽大学パルナナス多摩シユールベルト・ホール (関東)
- 6/22 日本外国特派員協会・電気ビル20F (関東)

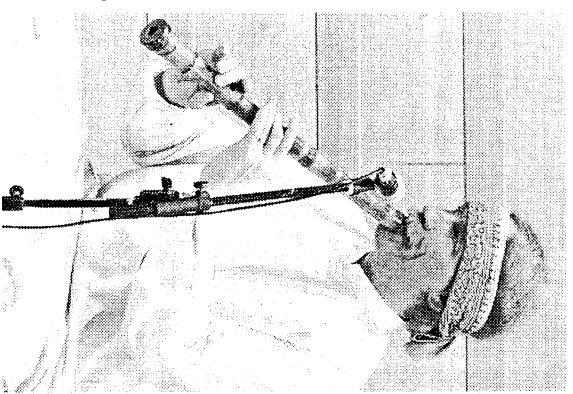
北インド古典音楽を修得する一方、尺八奏者としても国内外で活躍するT.M.ホッフマン。彼が代表を務める日印音楽交流会の呼びかけにより、インドの古典音楽家や楽器奏者らを招いた交流イベントが約2週間にわたり全国10カ所で開催される。インドから参加する音楽家は、ヒンズー教・仏教の聖地と言われるベナレス在住のミン



グイデヤダル・プラサード・ミシュラ
アマット・ミシュラ
サンディープ・ミシュラ
リシ・ミシュラ

ユラ一家4人。グイデヤダル・プラサード・ミシュラ、リシ・ミシュラの声楽2人と、タブラーのアミット・ミシュラ、サーランギーのサンディープ・ミシュラだ。以上のメンバーからなるインド古典音楽に、尺八など邦楽器を絡めた本格的なセッションを展開する。

初日の高崎公演は、三味線の松本梅征を迎えてインド楽器との共演を行う。



T.M.ホッフマン

また岐阜と名古屋の公演では、虚無僧尺八の牧原一路がサーランギーを伴って本曲を披露するほか、ホッフマンの尺八によるラーガや、短歌とインド音楽というユニークな組み合わせも。インド舞踊が観られる吹田公演は、スィス人の琵琶奏者・ギニヤード・シルゲインと尺八のホッフマンを加えた異種混交の編成が興味深い。その他、京都公演では種智院大学の学生による声明とのコラボレーションといった企画もあり、「日印音楽祭典」の名にふさわしいステージでの交流が展開されそう。[今や尺八はインド古典楽器のびとつになりつつあります]とホッフマン。日本の大正琴がインドに根を下ろしたように、尺八も彼の地で独自の発展を遂げるのか。意義深い交流となりそう。

(→11頁)

インド古典と邦楽器による10公演